

<麦類の栽培ポイント>

1 麦の生育状況

11月の播種時期に好天が続いたため、播種は順調に行われ、発芽・出芽も順調でした。今後(12月~2月)の気温は、平年並または低い確率が40%、降水量は、平年並または少ない確率が40%と予想されています。麦の生育や圃場の状態を良く観察して麦踏みを行い、寒さに備えて茎数を確保しましょう!

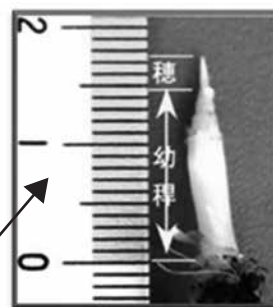
2 麦踏み

- 3葉目が展開したら、1回目の麦踏みを行いましょう。生育が遅れている場合は無理に実施せず、生育が進んでから実施します。今年は、播種時期から気温が高く推移したため、生育が進んでいる圃場は早めに麦踏みしましょう。
- 圃場が乾燥しているときに実施しましょう。雨や雪によって土壌水分が高いときに麦踏みを行うと、透排水性が悪くなって湿害を招いてしまいます。
- 麦踏みの回数は、茎立期直前までに3~4回が目安です。10日~2週間の間隔をあけるようにします。根張りを良くし、寒さに強い麦を生産するために麦踏みを行いましょう。

麦踏みの効果 →

- ① 分けつを進める
- ② 根張りを良くし、耐寒性をつける
- ③ 霜柱などによる凍上害防止
- ④ 暖冬時、早すぎる茎立ちを抑える
- ⑤ 穂ぞろいを良くする

幼穂が2cm程度になるまで踏圧できます。
この状態の麦であればまだ麦踏みできます。



3 排水対策の徹底

- 排水溝は排水路に繋いでおきます。また、時々排水溝を点検して、必要に応じて溝さらいを行いましょう。
- 排水対策を行うことで圃場が乾きやすくなり、麦踏みを実施しやすくなります。排水溝がまだない場合、早急に設置しましょう。

<秋耕をしましょう>

水稻跡で麦を作付しない圃場では、秋耕を早めに行うことで、以下のような対策ができます。

- 稲わらをすき込み、有機物の分解を進める。**
早い時期に稲わらをすき込むことで、わらの腐熟が促進され、次年産の水稻で根腐れを起こすメタンガスの発生を減らすことが出来ます。すき込む時には、10a当たり10~20kgの石灰窒素を散布し、分解を促しましょう。
- イネ縞葉枯病対策**
イネ縞葉枯病ウイルスを媒介するヒメトビウンカは再生稲やイネ科雑草に寄生し越冬します。県南部のヒメトビウンカ越冬世代幼虫のウイルス保毒虫率は2.2%*と低く推移していますが再生稲を確実にすき込み、次年産の発病を抑えましょう。
なお、「とちぎの星」「あさひの夢」はイネ縞葉枯病ウイルスの抵抗性を持っています。
*：栃木県農業環境指導センター 植物防疫ニュース(速報No.11)より

(裏面あり)



<農業用ハウスの雪害対策>

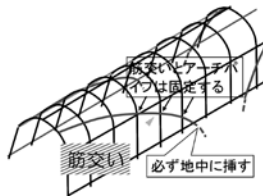
○平成26年の大雪は県内各地で多くのハウスが倒壊するなど、甚大な被害を及ぼしました。年数が経過したハウスは強度が低下しています。雪が降る前に必ずハウスの点検を行い、部材の更新や補強対策に万全を期し、雪害に強い農業経営を実現しましょう。

栃木県



筋交い

表面の奥行き方向への倒壊防止



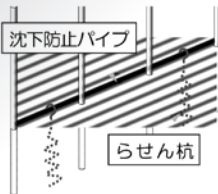
ブレース

ハウスの変形防止



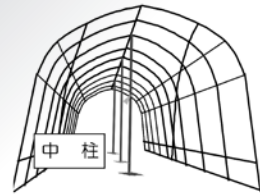
沈下防止とらせん杭

アーチパイプの沈下と引き抜き防止



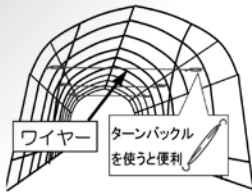
中柱

真上からの負荷による屋根のM字型陥没防止



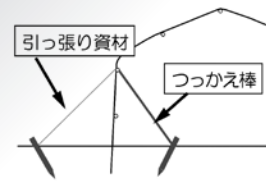
ワイヤーによる補強

アーチパイプの横への広がり防止



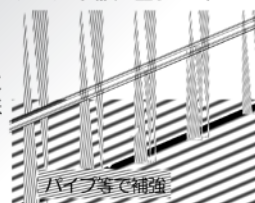
肩部の補強

軒の変形防止 (主に強風対策)



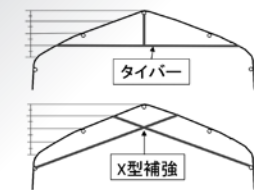
支柱の補強

アーチパイプの地際が部分的に腐食している場合の補強 (本来はパイプ交換が望ましい)



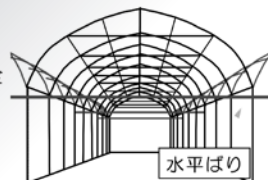
タイバー・X型補強

アーチパイプのM字型陥没防止



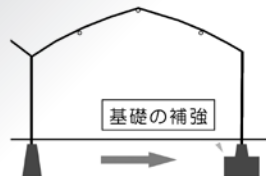
水平ばり

柱と柱をつなぐ水平材。ハウス全体の倒伏防止



基礎の増強

基礎の沈下や浮き上がり防止 (外周だけでも効果的)



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！



身支度も
万全にし
てまる！

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する